



会報 38 号で近年発行される切手の横文字使用に疑問を呈した。その一因に切手発行がシートでの発行に主眼がうつり、シートで発行の趣旨、目的等を表現し、デザインされている。切手は刺身のつま、付録、つけたしのようになり、一枚の切手を見ただけで発行趣旨、表現の意味を理解できないものが多くなっていると感じる。また、グローバルな社会である現在、外国語は従来とは異なる基準で使用される必要を感じる。国際関係事項の特殊切手に外国語表示が無かったり、横文字を単にデザインとして位置づけたり、日本語より大きくしていたり、その意図を考えさせられるものまで目にする。さらに、切手の種類を英語で普通切手と表示し、額面価格を5つも表示された奇妙なものまで出現したことを考えてである。

切手は国際的に情報を提供できる印刷物である。当然、外国語表示のあり方が慎重に検討されて然るべきである。そこで、日本切手に印刷された外国語という観点でしらべてみることにした。外国文字、外国語、主にアルファベットが切手に印刷されているのは国名、通貨名称、発行趣旨・目的の3点である。

国名

国名は3つ形で日本語以外で表示されている。まず大日本帝国の英語表示は1876年から1892年に発行された旧小判、新小判切手と1894年と1896年発行の記念切手（明治銀婚、日清戦勝）、計36種の切手に見られるだけである。菊切手以後は1966年にローマ字でNIPPONが表示されるまですべて漢字表示のみである。

1876年旧小判切手からの36種には英語で国名表示されている。この英語表示には2種類の表示がある。記念切手6種と小判5厘型、15銭型

の22種は大日本帝国郵便に対応してIMPERIAL JAPANESE POSTと表示されている。対して、1877年を中心に発行された5銭から12銭



最初の NIPPON 表示切手

の5種の5銭型の新旧小判切手8種はJAPANESE EMPIRE POSTと表示されている。

この違いは外国郵便等の使用目的とは考えられ



IMPERIAL JAPANESE POST



JAPANESE EMPIRE POST

2種の大日本帝国表示

ず、発行時期でも理解できないものである。勉強不足の身で不遜であるが、これは単にデザイン上の文字数からではないかと思いたい。EMPIRE小判8種は他の小判切手と異なり、デザインが統一されておらず表現されている物も異なる。額面表示もアラビア数字、ローマ数字、漢字が混在して使用されており、他の小判切手と異なる特徴を持っており文字配置の観点で使用したと考えたくなる8種の切手である。

額面表示

数値表示は竜文、竜銭切手8種と特殊切手8種（大正婚儀、日韓通信合同、明治神宮鎮座、台湾行啓、神宮式年遷宮）の16種が漢字だけで表示されている以外はすべてアラビア数字が表示されている。注意されるのがここでも5銭型新旧小判切手8種である。

この8種はアラビア数字、漢字、英語で数値を表示している以外に、5銭切手ではギリシャ数字のVが用いられ、8銭切手では漢字「八」が毛筆で表記されている。

貨幣単位をアルファベット・ローマ字表示したものは250種程度発行されている。単位名称は桜和紙カナ無し手彫り切手から小判切手までは銭はSENと表示されていたが、小判切手から簡略記号(?)が使用され、厘=R'n、銭=S'n、円=y'n



アラビア数字、ギリシャ数字、毛筆漢数字での額面表示



ENでの額面表示

で簡略記号は斜め長四角で表示され、アルファベットも大文字、小文字の使用に混乱があるようである。厘をRINと表示した切手はなく、上記R'n表示か、すべてが5厘表現であるため1/2SEN、1/2S'n表示になっている。



SEN表示

円表示は新小判切手でY'Nの簡略表示を最初に、1951年発行普通切手'らでん模様'YEN'表示までであるが、その間にYENとENの2種の表示が出現している。昭和白紙の神功皇后まではYEN表示である。

戦時色の中、横文字は禁止かと思ったが、1945



2種の円 y'N、YEN表示

年までの高額普通切手に“YEN”でなく“EN”として敵国文字が使われている。1939年発行普通切手'鎌倉の大仏'から1947年7月発行'梅花模様'までの18種の普通切手と1946年発行の郵便開始75年記念1円切手の計19種はEN表示になり、その後は1948、1951年発行普通切手'らでん模様'の2種だけがYEN表示切手であった。

その後はYEN表示はなく、2009年発行普通切手'恵喜童子像'にYENが変則的な形で4つ表示されて復活したようである。

このYEN、EN表示の混乱は2つの観点を考慮する必要があるようだ。

1. ローマ字表記の観点 ヘボン式ローマ字が確立したジェームス・カーティス・ヘボンが和英辞

書『和英語林集成』第三版(1886年版)に至って、「円」と格助詞の「へ」以外、「エ」は全て「e」に改定されており、すでに「円」は「yen」として定着していたと考えられる。

2. 発音の観点 YENと決定したことには日銀貨幣博物館より下記のような意見を受けた。

①発音上の理由

「EN」は外国人が発音すると「エン」よりも「イン」に近いものとなるので、子音「Y」をつけて「YEN」としたとの見方です。

因みに、幕末に日本を訪れた外国人の記録には、「江戸」を英語で「YEDO」と表現されています。

②諸外国との語句との区別

「EN」は、オランダ語では、「～と」、「そして」の意。スペイン語やフランス語では、「～の中に」の意で頻繁に使用されるため、これらとの混同を回避したとの見方があります。

③中国の「圓(ユアン)」からの転化

中国の「元」紙幣には「表に〇圓」、裏に「YUAN」と表示されていました。これが「YEN」に転化したとの見方があります。

ヘボン式ローマ字表示を無視してまでEN表示にした理由は全くわからないが鬼畜米英の時勢、何らかの形で従来の表示に変更を加える必要があったのかと考える。同時期の1938年から1941年に発行された国立公園小型シートの表示には英語でなくフランス語が用いられており、この辺の事情を考えさせる。

また、旧、新小判切手に見られた貨幣単位の簡略表示(厘=R'n、銭=S'n、円=Y'n)の斜め長四角が1894年明治銀婚で丸点になりS・Nとなり菊切手以降1938年までR・N、SEN、S・N、YENが横文字で使用されている。この四角略記号がどのような経過で丸点になったか知りたいものである。

ついでながら、国名、通貨表示とも漢字の一文



フランス語と紀元年が表示された小型シート



小判切手は斜め口、菊切手は○を使用

字縦書きが最後に使用されたのは1948年3月発行の採炭夫50銭切手の“便郵國帝本日大”、“銭拾五”が最後だろう。(横右書、右横書という表現は間違いらしい。参考：新潮新書「漢字は日本語である」)



最後の一字縦書き
国名表示切手

切手発行内容、目的

単語としての外国語使用を整理すると最初の記念切手明治銀婚切手に IMPERIAL WEDDING 25 ANNIVERSARY の表示が最初に見られている。その後は小型シート(国立公園小型シート1938-41年にフランス語、1946年郵便創始75年、1947年憲法施行に英語)がみられが、戦後1947年までは見られず、共同募金切手の COMMUNITY CHEST と表示した共同募金バッジを描いた切手が最初である。しかし、これも表示文字として明確に表示したものではない。その後、化学記号、UPU、放送局のアルファベット、を表示したアルコール専売10年、UPU75年、放送25年の切手



IMPERIAL WEDDING
25 ANNIVERSARY



COMMUNITY CHEST

と赤十字・共同募金、国立公園の小型シート上に英語は存在するが、切手上の英語としては1949年発行の別府湾と高崎山を描いた別府観光切手“BEPPU 別府”である。終戦直後の混乱期、海外に向けての観光PR切手としては考えにくく、在日駐留軍族を意識し英語の使用が意図されたとも考えたい。また、1950年をはじめにきじ航空切手が航空切手としては最初にして最後に“AIR MAIL”を表示し発行されていることも占領下の日本を考えさせるといえるのはかなりの偏見であろうか。



BEPPU

AIR MAIL



最初の記念切手、明治銀婚切手から約70年、切手の発行目的等が英文でやっと表示されたのは最初の多色印刷切手の1955年国際商業会議所東京総会切手の“XVth CONGRESS OF I.C.C. TOKYO”である。その後は年に最低1枚の切手に英文が表示されており、1958年以降は国際文通週間切手に代表されるように英語を表示する切手が多くなりようになった。国際化が著しく進む現在、1枚の切手の持つ情報は従来にも増して無視できなく、新たな利用方法があるのではないか。しかし、現状の切手の英語表示(外国語表示)の発行目的内容による基準もしくは尺度が判然としない感



XVth CONGRESS OF I.C.C. TOKYO

感を強くしたので、

この点を少し検討してみた。

外国語表示を検討するのであるから、切手発行目的内容には、国際、世界、親善、外交、国交といった語が含まれる場合には外国語での発行趣旨表示が期待されるので、これらの語を中心に大雑把に検討してみた。他に、動植物の学名等があるが、今回は除いた。

国際の文字を使用した特殊切手は約 400 種存在するようである。そのうち団体・機関、会議、運動等のマーク、ロゴの横文字を含めて英語を中心に横文字が表示されているのは 80% 以上、約 270 種になる。しかし、ユネスコのような著名なマークと相応しい図案であれば、切手の持つ意味はつかめるが、多くの切手に対して、その発行目的を海外で理解をどの程度期待したのかと疑問を感じざるを得ない。例えば、1984 年国際内科学会議、1987 年世界歴史都市会議記念切手に英語で会議名が表示されていたら情報量の意味するところは、と考える。また、1977 年国際看護婦協会大会、1990 年国際助産婦大会の切手、図案から発行の漠然とした意味はつかめても国際大会までは考えないであろう。蛇足ながら 1977 年国際看護婦協会大会切手は発行以来切手商日本切手カタログでは 50 年近く 全国看護婦協会大会 の誤りのままであり、英文表示があれば、と失笑を禁じ得ない。

世界という文字を使用した切手は約 100 種あるが、スポーツ関係が多いせいか半数以上に英語表示はないようであり、検討されてしかるべきであろう。

また、統一した方が良いのでは考えるのが、国際地球観測年にはじまり、今年の国際森林年までに 40 種近く発行されている国際年の表示である。英語表示は少なく、世界統一マークを表示しても小さい表示が多く理解しにくい切手が多いように感じるのは更なる偏見であろうか。

最近感じるのが、郵便会社のシート単位販売重視にともなう一枚の切手の持つ情報量の減少



略記でない会議名が英語表示されていれば？

である。例えば、過去にサミット記念切手は TOKYO, OKINAWA, TOYAKO と 3 件 13 種発行されている。TOKYO, OKINAWA の 3 種には英語が表示されているのに洞爺湖サミットの切手からは英語が消えて、代わりに、シートに日本語の 4, 5 倍の大きさで G8 HOKAIDO TOYAKO SUMMIT 2008 と表示されている。この英語が各切手に上記に示したように表示されていれば、わずかでも北海道の観光事業にプラスとなったのではないかと考えたい。外国人がこの切手を 1 枚、目にしたら、公園切手か、動物保護切手かと考えてしまいはしないか。このようなシート重視、切手軽視の発行が続くことを危惧する。

因みに、2011 年に発行された切手のシートと単片としての切手に表示された外国語を整理してみたのが表 1 である。シートには半数以上に英語、独語 (1) が表記されているのに、切手自体に外国語が表記されたのは非常に少ない。すべてに外国語表記が必要ではないのは勿論であるけど、国際的な事項に関して発行された南極条約発効 50 周年、世界体操東京大会、自然保護という国際的課題に関連する自然との共生を訴える切手などに外国語 (英語) 表示があれば発行の意味がより深まりはしなかったかを感じる。

また、自然との共生シリーズは発行を増すにしたい日本の自然の豊かさを広く知ってもらうためにも動植物の学名表示がないのが悔やまれる切手になりそうだと考えてい



TOKYO(1 種), KYUSU-OKINAWA(2 種) SUMMIT の表示あるサミットの切手と自然公園切手とも考えられそうな HOKAIDO TOYAKO SUMMIT(10 種) 切手



る。今後、動植物をメインに写真、細密画で採り上げる切手は英語での学名表示を期待したい。

次に、英語若

表 1. 2011 年発行切手の外国語表示 シートと切手

通称	シート表示	切手表示
2011 グリーティング・干支文字	無	無
2011 年切手趣味週間・郵便創業百四十周年	Philately Week 2011	Philately Week 2011 JAPANPOST
アニメ・ヒーロー・ヒロインシリーズ 第 16 集	無	無
アニメ・ヒーロー・ヒロインシリーズ 第 15 集	無 (ONEPIECE)	無
グリーティング切手ピーターラビット	THE WORLD OF PETER RABBIT	無
夏のグリーティング	HELLO KITTY & DEAR DANIEL	無
行政相談委員制度 50 周年	無 日本語標語	無
国際文通週間にちなむ郵便切手	International Letter-Writing Week,2011	International Letter-Writing Week,2011
自然との共生シリーズ 第 1 集	Harmony with Nature Series No.1	無
春のグリーティング	GREETINGS	無
星座シリーズ 第 1 集	Constellation Series No.1	無
第 43 回世界体操競技選手権東京大会	ARTISTIC GYMNASTICS WORLD CHAMPIONSHIPS TOKYO 2011	ARTISTIC GYMNASTICS WORLD CHAMPIONSHIPS TOKYO 2011
地上テレビ放送の完全デジタル化	無	無
冬のグリーティング	Greetings・Winter	無
東京国際空港開港 80 周年	The 80th Anniversary of Tokyo International Airport	無
東京文化会館 50 周年	The 50th Anniversary of Tokyo Bunka Kaikan	無
東日本大震災寄付金付	無	無
南極条約発効 50 周年	無	無
日独交流 150 周年	150Jahre Freundschaft Deauchland-Jpan	150Jahre Freundschaft Deauchland-Jpan 1枚地名
日本のスポーツ 100 年	JAPAN SPORTS 100th ANNIVERSARY	無
日本の山岳シリーズ 第 1 集	Japanese Mountains Series No.1	無
日本国際切手展 2011	PHILA' NIPPON2011	PHILA' NIPPON2011
日本国際切手展 2011	PHILA' NIPPON11	PHILA' NIPPON2011
農林水産祭 50 回	50th FESTIVAL OF AGRICULTURE FORESTRY AND FISHERY	無
ふるさとの花 第 10 集	無	無
ふるさとの花 第 9 集	無	無
ふるさとの祭 第 6 集	Hometown Festivasls Series 6	無
ふるさとの祭 第 7 集	Hometown Festivasls Series 7	無
ふるさと心の風景 第 10 集	Hometown-Scenes in My Heart	無
ふるさと心の風景 第 9 集	Hometown-Scenes in My Heart	無
季節の花シリーズ 第 1 集	Seasonal Flowers Series No.1	無
江戸名所と粋の浮世絵	無	無
国土緑化・国際森林年	無	INTERNATIONAL YEAR OF FORESTS・2011(1枚のみ)
第 66 回国民体育大会	The 66th National Sports Festival	無
地方自治法施行 60 周年記念シリーズ 岩手県	無	無
地方自治法施行 60 周年記念シリーズ 熊本県	無	無
地方自治法施行 60 周年記念シリーズ 佐賀県	無	無
地方自治法施行 60 周年記念シリーズ 鳥取県	無	無
地方自治法施行 60 周年記念シリーズ 滋賀県	無	無
地方自治法施行 60 周年記念シリーズ 沖縄県	無	無
旅の風景シリーズ 第 11 集	Travel Scenes Series No.11 Hokkaido Scenes from Winter to Spring	無
旅の風景シリーズ 第 12 集	Travel Scenes Series No.12 Hokkaido Summer Scenes	無
旅の風景シリーズ 第 13 集	Travel Scenes Series No.13 Hokkaido Scenes from Autumn to Winter	無
旅の風景シリーズ 第 14 集	Travel Scenes Series No.14 Tokyo.Omotesandou Area	無
年賀平成 24 年用	無	無

しくは横文字をデザインとして重視して日本語表示の存在を忘れないでほしいことである。切手趣味週間切手は日本語での切手趣味の表示はなく 98 種発行されてきた。1970 年まではビードロを吹く娘の切手の大きさが切手趣味週間記念を感じさせるものであったが、1971 年からは大きさの特徴が無くなり、他の特殊切手との判別は難しくなっている。2002-2008 年と今年の趣味週間切手に PHILATELY WEEK (YEAR) 文字等が特殊な印刷表示でなされている。一般の人が PHILATELY を切手収集と理解できることは期待できない。せめて切手趣味週間という日本語を小さく入れたほうが発行目的に沿うのではと思われる。

次に使用外国語の観点からは、修好条約、交流年等、外交で戦後約 30 件 120 種の切手が発行さ



PHILATELY WEEK より切手趣味週間と表示があれば

れているが、外国語の使用に統一性が見られない。モンゴル、ギリシャ、チリ等 20 ケ国に關係する切手が発行されているが相手国言語と日本語の 2 ケ国語表示と日本語のみ表示の切手があり統一性に欠ける。スペイン語、モンゴル語、ギリシャ

語、ハンガリー語などを用いて2ヶ国語での発行意義を伝えてる切手があると思うと、意外な国との切手が日本語表示のみであったりする。特に、隣国の中国、韓国については7件発行されているが日本語のみの表示である。両国の漢字の変化、漢字使用の実態を考慮すれば現在の中国漢字、ハングル等での表示が検討されてしかるべきであろう。



モンゴル語、スペイン語、ハンガリー語の表示

これとは対照的に、2ヶ国の文字の大きさのバランスの点から疑問を感じざる得ないものがある。2010年安保改定50年記念切手では日本語と英語の文字の大きさが4倍以上異なり、日本語は1行なのに、英語は改定50年を除いて3行に表示され、デザインで日米関係を象徴した表現をしているのではと、勘ぐりたくもなる。



発行した国を疑いたくなる文字の大きさ



逆に不必要とかんじる外国語表示も存在する。2009年発行300円普通切手である。JAPANPOST DEFINITIVE STAMP 300YENという英語が上下、左右の4辺に表示、日本語は日本郵便の4文字だけである。普通切手発行の

慣例から今後の普通切手が当分このJAPANPOST DEFINITIVE STAMP ○○ YENが表示されることを覚悟せねばならないのであろうか。このような表示の是非はともかく、せめて1辺にとどめ、他には金剛峯寺恵喜童子像と表示されていたらどんなものであろう。

宣伝

切手に表示される文字情報は広くは広報ととらえられるが、少ないが宣伝の意味合いが非常に強いものがある。観光宣伝を強く意図した外国語表示が存在する。観光切手別府は地名Beppuを、岐阜、沖縄のふるさと切手はふさわしいかは疑問でだがBeautiful Okinawaと表示している。外国観光客誘致のためであるなら一定の基準と発行頻度を決めて発行することを検討してみても良いのではないかと考える。



Beautiful Okinawa
パイナップル・沖縄県

心のふるさと飛騨・岐阜県
Beautiful Hida

沖縄県、岐阜県のふるさと切手に見られる観光宣伝

以上、切手の外国語表示に偏見に満ちた苦言を呈したが、外国語表示に一定の原則、基準が見えないことが残念である。英仏西等主要言語以外を使用する国の実情も調べる必要を感じるが今回はご容赦をください。

(編集子)